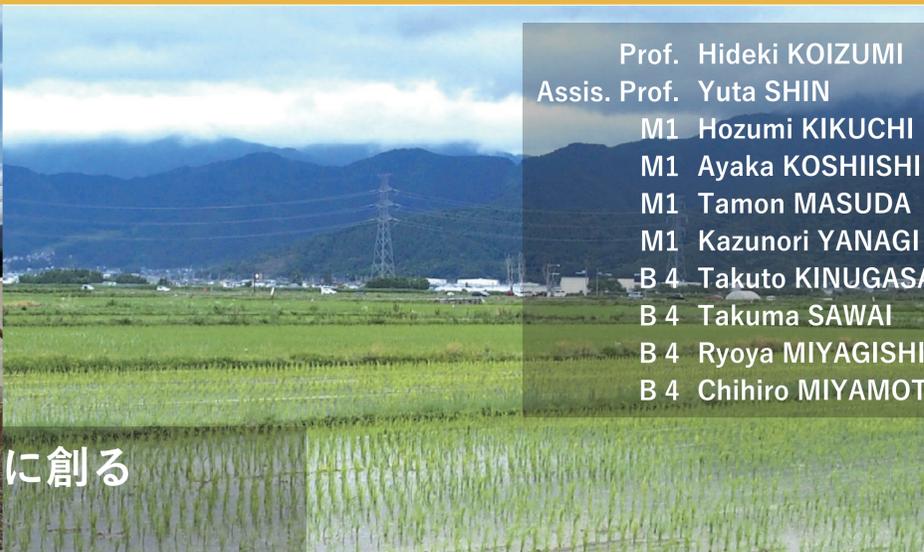




持続可能な農村コミュニティを共に創る
Creating a Sustainable Rural Community



- Prof. Hideki KOIZUMI
- Assis. Prof. Yuta SHIN
- M1 Hozumi KIKUCHI
- M1 Ayaka KOSHIISHI
- M1 Tamon MASUDA
- M1 Kazunori YANAGI
- B 4 Takuto KINUGASA
- B 4 Takuma SAWAI
- B 4 Ryoya MIYAGISHI
- B 4 Chihiro MIYAMOTO
- B 4 Ryoma ISHIZAKI
- B 3 Aya KATADA
- B 3 Naoko TSUGE
- B 3 Moeki NISHIMURA
- B 3 Keisuke WADA
- B 2 Kamon KITAMURA
- B 2 Akiko KOGA
- B 2 Koshi SUGANO
- B 2 Asuka TANZAWA
- B 2 Yuta YAMAMURA



地域と活動の概要 | 小布施町と小布施プロジェクト

Background | Obuse Town and the Obuse Project

■小布施町について

長野北部に位置する小布施町は、江戸時代から交通の要所として発達しました。1970年代以降、都市への人口流出に対し歴史と自然が調和したまちづくりを行ったことで近年は観光地としても注目されています。しかし、郊外に広がる農村部は多くの課題を抱えています。

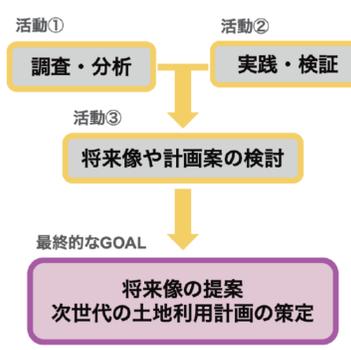
■活動の概要

小布施町の都住地区を対象として、農村集落における地域資源を活かしたコミュニティ活性化と、ボトムアップ型の次世代土地利用制度作成に向けた方向性の提示を目標として2016年度より活動しています。行政や地域住民のみならず、調査・分析と実践・検証を繰り返すことで準備を進めています。

課題：人口減少、高齢化、空き資源、コミュニティ弱体化 / 特性：農村風景、景観条例、オープンガーデン



▲小布施町の立地



▲活動の流れ

活動内容 | 調査・分析から実践・検証へ

What we have worked on | From research and analysis to practice and verification.

2016年度にプロジェクトを開始して以降、様々な調査・分析を行うことで小布施町の特徴や課題を把握してきました。2019年度ごろからは、実践・検証のフェーズへと進みつつ、地域住民の皆さまとともに町の将来を考える活動もしています。ここでは2022年度の主な活動内容についてご紹介します。

■農地調査

農地と制度との関係性を把握するために、現地出身の学生と共同で農地の耕作状況や作物の現状を調査し、その調査データをGISで分析しました。また、調査の成果物を「農と暮らしゼミ」や「現地農家さん対話会」などを通じて住民に共有し、地域の農地の現状と課題についての議論を促進しました。



▲▶「都住の庭」の様子(上:スラックライン、右:野菜販売所)



■都住の庭

農住混在地域の低未利用地の可能性を探る目的で、昨年9月の週末に社会実験を行いました。現地の農家さんが育てた新鮮な野菜や果物の販売コーナーと、農家さんのことを表示する紹介パネルを設置し、空き地を農住の交流地にすることを目指しました。また、スラックラインやりんご箱の椅子を設置し、来場者の交流・滞在を図りました。



▲「農と暮らしゼミ」の様子

■農と暮らしゼミ

複雑化する町の現状の制度を確認し、制度の背景や景観・文化を踏まえ、将来の土地利用のあり方を考えるために、集中的に理解を深める全5回の農と暮らしゼミを開催しました。

2016	空き家の全域外観目視調査	調査・分析
2017	対象者別ヒアリング調査 勉強会の実施 土地利用実態の外観目視調査	
2018	集落全員アンケート調査	
2019	アンケート報告会 都住の縁側を作ろう！ ふらっとーく	実践・検証
2020	通り門調査 分家住宅調査 GIS・農地調査 都市計画キャラバン 写真展・シンポジウム	
2021	農地調査 研究報告会 写真展・シンポジウム	
2022	農地調査 写真展 都住の庭(社会実験) 都市計画勉強会 農と暮らしゼミ	提案

▲これまでの活動(調査・分析から実践・検証・提案へ)

今後の展開 | これまでの活動を元に、より詳細な提案へ

Future vision | To more detailed proposals based on previous activities

地域住民や行政との意見交換を引き続き行いながら、小布施町の将来像の実現のために必要となる、具体的なプランの提案に向けた活動を行っていきます。必要な調査等を行いつつ、現状の見直し方法について、住民の方と共に検討していきます。

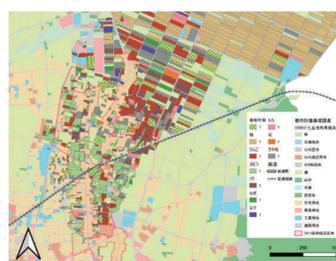
■地区計画の提案：全体像の把握から、詳細計画の提案へ

「農と暮らしゼミ」を通して得られた意見やこれまでのデータをもとに、具体的な地区計画の提案に向けた準備を進めていきます。農と暮らしゼミでは小布施全域の課題・魅力の発見を目的としましたが、今年度はより解像度を高めた提案を行います。そこで、ケース地区ごとに基礎調査と課題整理を行い、それぞれの地区の実態を踏まえた計画の提案を目指します。

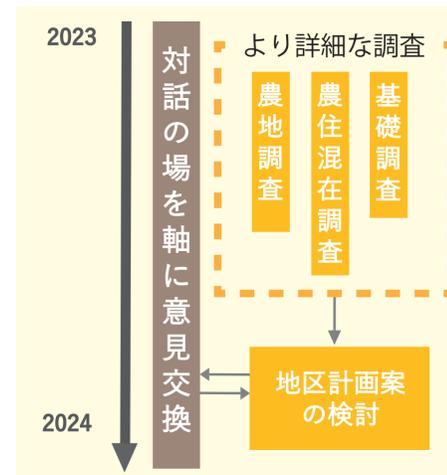
■農地調査データの活用：農住混在の定量化へ

2020年度から開始した農地調査は、現在町内の2つの地域で調査を終えており、他の地域でも同様の調査に着手していく予定です。また、所有者・耕作者といった人の情報を付加することで、データとしての有用性を向上させていきます。

加えて、『農住混在とは具体的にどのようなものか』を定量的に評価することを目的とした調査を行う予定です。現地でのまちあるきや写真から、実際に農住混在の良好な風景だと捉えられている場所が土地利用などにおいてどのような特徴をもつのかを明らかにすることを試みます。得られた結果から、今後の土地利用方針に活かされる指標づくりに取り組んでいく予定です。



▲調査から作成した作物地図



▲今後の予定